

サービス業の景気動向 (1)

サービス業の景況感は業種により二極化の傾向に ～景況感の持ち直しが弱い業種では、売り上げは前年同月を大きく下回る～

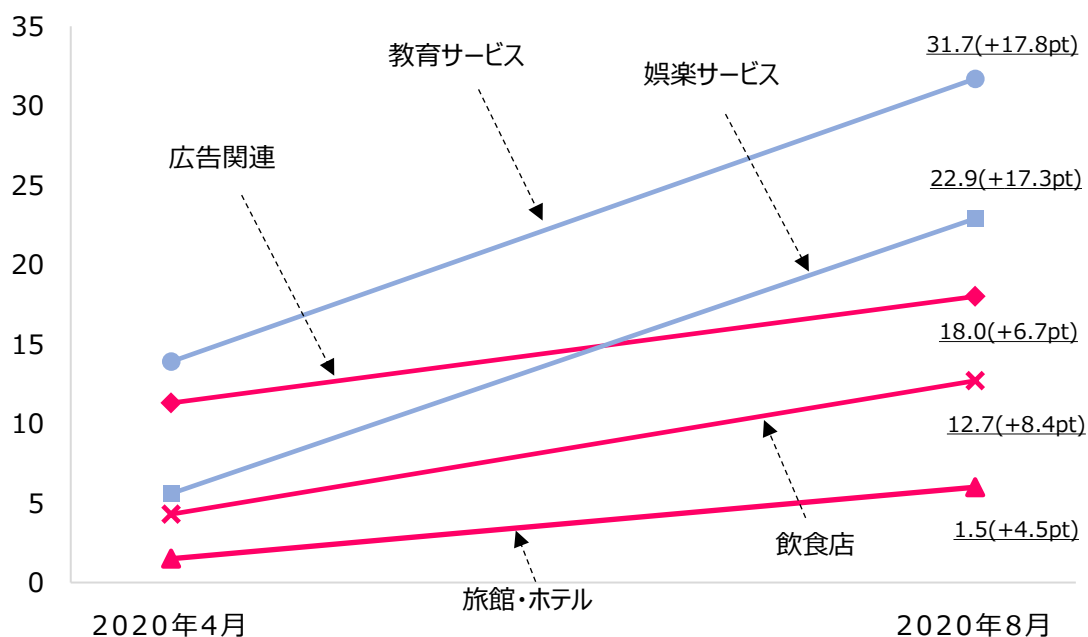
データソリューション企画部

杉原 翔太

【要約】

- 国内の景況感にわずかな回復傾向がみられるなか、業種別に景況感の推移をみると、持ち直しの動きがみられる業種と、厳しい状況が継続している業種に分かれている。特に、『サービス』では業種によって景況感が二極化する傾向にある。
- 2020年4月から6月までの各月の企業の売り上げ、および7月の売り上げ見込みを箱ひげ図で表したところ、5月の売り上げは前後の月と比べ、分布が上下に大きく広がっていた。また『サービス』では、4月の段階で分布にその傾向が表れていた。『サービス』のうち「旅館・ホテル」など、景況感の持ち直しが弱い業種では、4月および5月の売り上げが多く企業の前年同月を大幅に割り込んでいる。さらに、6月以降も依然として多くの企業で前年同月を下回る状態が継続している。

二極化傾向が強まる『サービス』の景気DI (2020年4月から2020年8月)



出所：帝国データバンク「TDB 景気動向調査」

TDB 景気動向調査（2020年8月調査）における景気DIは29.7（前月比0.6ポイント増）となり、3カ月連続で持ち直しの動きがみられた。しかしながら、業種別に景況感の推移をみると、持ち直しの動きがみられる業種と、厳しい状況が継続している業種に分かれている。新型コロナウイルスの影響で国内景気に不透明感が漂うなか、特にサービス業では業種によって景況感が二極化する傾向にある。

本レポートでは、TDB 景気動向調査の景気DIを使って、直近1年の範囲で業種別の景況感の推移を概観している。また、特別企画「新型コロナウイルス感染症に対する企業の意識調査（2020年7月）」で得られた企業の対前年同月の売り上げのデータをもとに箱ひげ図を作成し、企業の売り上げの分布の特徴を分析した。

1. 国内の景況感は一極化の傾向に、業界・業種によって明暗分かれる

図1では、2019年8月から2020年8月までの景気DIの推移を業界別にヒートマップ図で表している。国内の景況感は一極化を問わず、3月および4月に大幅に下落した。外出自粛やイベントの中止、訪日客の入国制限などの影響に加え、4月に政府から緊急事態宣言が発出され、経済活動が制約されたことで国内景気は急速に悪化した。緊急事態宣言が5月に解除され、6月以降、国内景気は徐々に持ち直しつつあるものの、業界・業種によってその動きに一極化の傾向がみられる。

特に、『サービス』に関して業種別に景気DIの推移（図2）をみると、「飲食店」や「旅館・ホテル」、「広告関連」などでは、依然として20を下回る厳しい水準での推移が続いている。持ち直しの動きがみられる業種と、低水準が続く業種で景況感に明暗が分かれる格好となっている。

図1 10 業界別景気DIの月別推移

農・林・水産	41.5	41.8	42.3	42.5	41.7	38.4	37.9	32.8	28.2	25.1	29.6	31.4	31.0
金融	44.7	45.8	45.4	46.8	44.5	44.8	42.2	33.3	27.3	28.7	32.4	31.5	32.6
建設	52.1	53.1	52.1	52.2	51.6	50.0	47.8	41.5	33.9	33.5	36.3	37.5	38.4
不動産	46.5	48.0	45.9	46.0	44.2	45.9	42.0	31.6	21.9	23.5	29.2	32.5	33.1
製造	41.4	40.6	40.3	39.6	38.6	37.6	34.9	30.3	24.7	23.0	23.6	24.9	25.9
卸売	40.8	41.4	39.9	39.3	38.4	37.9	34.4	29.4	23.7	23.0	25.3	27.0	27.1
小売	40.2	42.6	37.0	36.1	35.8	36.3	34.1	26.7	21.2	21.1	29.1	31.0	30.3
運輸・倉庫	45.5	46.0	44.9	45.1	42.6	39.5	34.0	27.7	22.4	22.7	21.5	24.2	25.4
サービス	50.7	51.0	50.6	50.4	48.8	49.5	45.1	35.3	25.8	26.1	29.4	31.2	31.8
その他	43.2	42.1	43.1	40.4	41.7	42.7	39.2	29.8	24.4	26.2	27.1	29.3	28.8
	2019年8月	2019年9月	2019年10月	2019年11月	2019年12月	2020年1月	2020年2月	2020年3月	2020年4月	2020年5月	2020年6月	2020年7月	2020年8月

出所：帝国データバンク「TDB 景気動向調査」

図2 『サービス』の業種別景気DIの月別推移

飲食店	38.1	43.6	37.3	39.4	40.7	41.0	32.3	14.2	4.3	5.5	13.8	13.7	12.7
電気通信	60.6	56.9	56.1	59.5	52.8	64.6	57.1	50.0	30.3	33.3	43.3	41.7	42.6
電気・ガス・水道・熱供給	52.6	51.3	51.2	52.2	47.4	52.4	46.7	40.5	28.4	32.4	34.4	34.9	42.5
リース・賃貸	51.7	53.5	54.5	53.1	50.4	50.8	46.9	34.0	27.8	29.1	30.2	31.4	32.7
旅館・ホテル	39.9	47.2	41.3	42.0	39.1	38.5	23.2	7.0	1.5	2.9	4.8	5.1	6.0
娯楽サービス	40.9	38.7	38.2	40.7	37.5	39.4	35.7	17.0	5.6	9.3	11.5	17.5	22.9
放送	45.2	43.1	42.9	41.7	38.2	38.1	38.9	29.8	22.9	22.5	26.7	25.6	34.5
メンテナンス・警備・検査	49.8	48.6	49.1	47.3	46.6	46.4	42.6	36.0	27.5	26.6	29.9	33.2	34.1
広告関連	38.9	40.3	40.4	39.6	37.8	40.0	34.1	21.3	11.3	10.7	14.3	19.0	18.0
情報サービス	58.7	57.7	57.4	57.8	56.2	56.5	54.2	43.9	33.7	34.0	35.8	37.2	37.9
人材派遣・紹介	51.0	53.2	53.3	50.9	46.2	49.2	42.5	34.1	21.0	20.0	25.3	24.6	25.4
専門サービス	51.1	51.8	51.5	50.8	49.9	50.3	45.8	40.4	31.4	32.2	35.0	36.7	36.1
医療・福祉・保健衛生	46.5	47.3	46.5	48.5	47.7	47.8	43.2	35.9	26.4	26.1	30.5	29.9	31.0
教育サービス	39.5	40.0	42.4	37.8	43.1	41.4	40.0	29.7	13.9	18.8	28.0	29.5	31.7
その他サービス	48.3	48.4	47.9	47.9	45.6	46.2	39.8	29.2	21.2	21.8	26.6	28.7	28.4
全体	50.7	51.0	50.6	50.4	48.8	49.5	45.1	35.3	25.8	26.1	29.4	31.2	31.8
	2019年8月	2019年9月	2019年10月	2019年11月	2019年12月	2020年1月	2020年2月	2020年3月	2020年4月	2020年5月	2020年6月	2020年7月	2020年8月

出所：帝国データバンク「TDB 景気動向調査」

2. 「旅館・ホテル」「飲食店」などで多くの企業の売上げが前年同月を下回る

帝国データバンクでは、2020年4月から6月の各月の売上げおよび7月の売上げ見込みの増減について、全国2万3,680社を対象にアンケート調査を実施した^{1,2}。

図3は、全企業の各月ごとの売上げの増減について作成した箱ひげ図である。箱ひげ図はデータの分布を文字通り、「箱」と「ひげ」で表したグラフであり、下のひげ線がデータの最小値、箱の下線部分が第一四分位数（25%）、箱の中線部分が中央値（50%）、箱の上線部分が第三四分位数（75%）、上のひげ線がデータの最大値をそれぞれ表している³。また、図の中の「◆」は、各月の売上げ前年同月比の平均⁴である。

¹ 帝国データバンク「新型コロナウイルス感染症に対する企業の意識調査（2020年7月）」2020年8月12日発表

² 各月とも前年同月を100として、「200以上」「190～199」「180～189」「170～179」「160～169」「150～159」「140～149」「130～139」「120～129」「110～119」「101～109」「100（横ばい）」「90～99」「80～89」「70～79」「60～69」「50～59」「40～49」「30～39」「20～29」「10～19」「1～9」「0」と「分からない」の24選択肢で質問している。

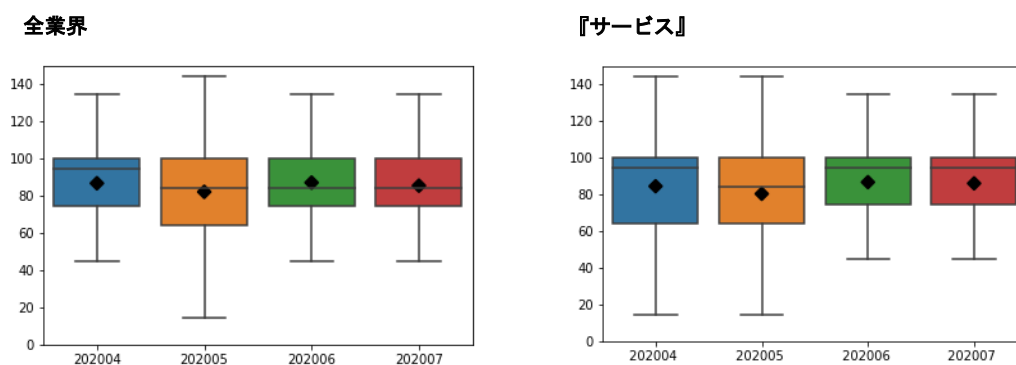
³ ひげ線の最大値、最小値は「外れ値」を除いた最大値、最小値である。箱の長さ（第一四分位から第三四分位）を、それぞれ上下に1.5倍した値より大きい（小さい）ものが「外れ値」として検出される。今回のグラフでは、「外れ値」を表示させないオプションをつけてグラフを出力している。

⁴ 平均は、各選択肢を範囲内の最小値と最大値を足して2で割った値（10～19であれば、14.5）に変換したうえで算出している。また、「200以上」は200としている。

図3の左図（全業界）をみると、2020年5月の売上げの分布が、前後の月と比べて上下に大きく広がっており、企業の売上げに二極化していたことがわかる。また、6月および7月の売上げの分布は5月と比べて狭まってきているものの、中央値、平均値はそれぞれ100を下回っており、依然として多くの企業で売上げが前年同月を下回っていることが読み取れる。

図3の右図では、『サービス』全体のデータを抽出して、全産業と同様に箱ひげ図を作成した。これをみると、『サービス』では2020年4月の段階で、全業界と比べ売上げの分布が上下に大きく広がっていることがわかる。『サービス』の売上げは、より早い段階で二極化の傾向がみられていた。

図3 対前年同月比の売上げの月別推移



出所：帝国データバンク「新型コロナウイルス感染症に対する企業の意識調査（2020年7月）」

『サービス』のうち、景況感が厳しい水準で推移している業種では、売上げも前年を大きく下回っている。図4では、『サービス』のうち、「旅館・ホテル」、「飲食店」、「広告関連」、「娯楽サービス」のそれぞれの業種で、箱ひげ図を作成した。

「旅館・ホテル」では、4月および5月の売上げは全ての企業で前年同月比60を下回り、中央値は20を下回っている。6月以降、売上げの平均値および中央値は上昇しているものの、依然として多くの企業で前年を大きく下回っていることがわかる。

「飲食店」、「広告関連」、「娯楽サービス」の売上げも、4月および5月に多くの企業で前年同月の売上げから大きく落ち込んでいる。6月以降も平均値および中央値に上昇傾向がみられるものの、多くの企業で前年同月の売上げを割り込んでおり、厳しい状況が継続している。

まとめ

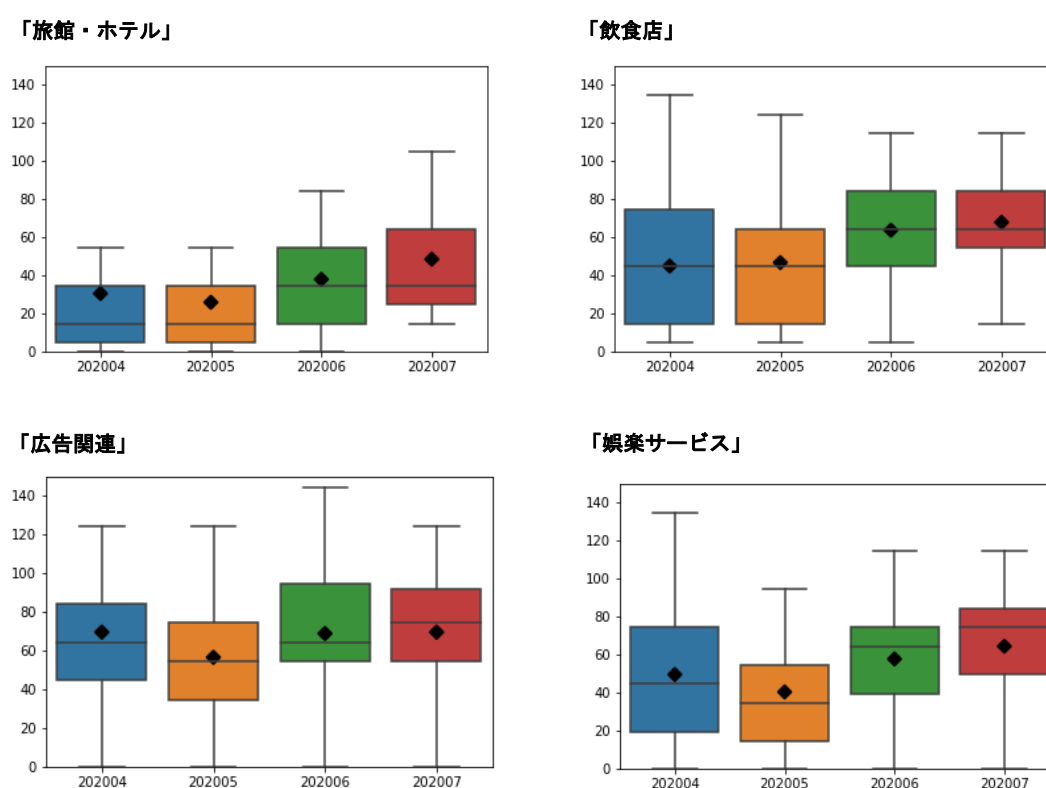
緊急事態宣言の解除とともに経済活動は徐々に再開してきた。また、各種観光振興策なども実施されるなか、国内景気はわずかながら回復傾向がみられている。しかしながら、業種別に詳しくみていくと景況感は二極化の傾向も表れてきている。特に、サービス業では厳しい水準での推移となっている業種で、多くの企業の売上げが前年同月と比べ大きく落ち込んでいる。

今後は、各種観光振興などの各種消費支援策もあり、個人消費は徐々に持ち直しが期待される。しかしながら一方で、新型コロナウイルスの感染状況は依然として不透明感があり、国内景気は

横ばい傾向で推移するとみられる。そのようななか、国内の業界、業種別での景況感は二極化の傾向が継続、より強まっていくことも考えられる。

「新しい生活様式」へ対応するべく、企業においては既存の事業に加えて新しい事業に取り組む動きも活発になってきている。特に「旅館・ホテル」「飲食店」では、テレワーク向けの宿泊施設の日中利用や料理品の宅配事業など、新規事業に取り組む企業も多くみられる。厳しい状況を打破するため新しい取り組みがより促進されるよう、官民ともに速やかに手を打っていくことが必要である。

図4 『サービス』の業種別の売り上げ（対前年同月比）



出所：帝国データバンク「新型コロナウイルス感染症に対する企業の意識調査（2020年7月）」

【 問い合わせ先 】

株式会社帝国データバンク データソリューション企画部 産業データ分析課

杉原 翔太

03-5775-3163 keiki@mail.tdb.co.jp

帝国データバンクで毎月実施している TDB 景気動向調査にご協力いただける企業さまは、こちらから登録できます（スマートフォン等をお使いの方は QR コードからも可能です）。

<https://www.tdb-di.com/ent/rent.html>



当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。